公益社団法人MORIUMIUS 令和4年度事業報告書

2023年3月31日

1. 概要

令和4年度も新型コロナウィルス感染拡大の影響により休業もしくは滞在者がいない時期が多くかった。

その反面、滞在することができなかった学校や貧困家庭、児童養護施設向けにオンラインを活用したプログラムを105名に配信しました。

宮城県内の小中学校との連携はこれまで以上に強め、従来の宿泊ではない日帰り体験を学校・児童に対し、プログラムの実施を行い、住民参加型の活動の充実を目指した。
また、今年度は石巻市の体育館・艇庫事業がはじまり、新型コロナウィルス感染拡大の影響はあれど海洋教育の拠点として地元のこどもを始め、県外からの交流の場として507名が利用した。

さらには雄勝町内の津波被害のあった町の元中心部が石巻市によって公園化されることが決定し、住民主体となって人が長く関わり緑や花で溢れる場所にするためにモリウミアスとも参画し、協議会のメンバーとして行政との会議に加わり計画を検討し、町の活性化に貢献した。農地整備は少しずつ進み、地域のこども向けの体験農園が整備され活用を始めた。艇庫事業は指定管理業者として引き続き運営し、年間2960名（艇庫1488名、体育館1472名）の町民と訪問者が利用し、海をテーマに雄勝町とのつながりを生み出している。

被災し親を失ったこどもや児童養護施設で生活するこども、熊本での地震災害の被害にあったこども達や貧困家庭のこども達の28名を招待することができた。同時にオンラインプログラムとしてモリウミアスとつなぎ、自然との繋がりを感じる機会も。また地元出身者を雇用し、県外から移住して従業員として働く者のために空き家を借りて寮にするなど故郷に戻るきっかけや過疎化対策にも貢献している。

- 施設滞在者数：797人（企業や大人の団体286名）

- 学習支援児童数：425人（地元の小・中学と連携、述べ人数）
- 外国人の滞在者数：0人
- 連携企業数：6社
・フルタイム・パートタイム雇用：10名、15名

2. 活動内容

（ア）モリウミアス事業

① こども向けプログラム（地域と県外からの小、中学生を対象）

- 1週間こども達だけで滞在するプログラム。自然の循環とその暮らし、住民との交流をつうじサステナブルに生きる力を醸成することを目的とする。

テーマ： 循環する暮らしの体験（サステナブル）、土地と人の物語の体験（ローカル）、人の多様性（ダイバーシティ）
上記3つをテーマに森、海、沢、まちをフィールドに共同生活をするプログラム

DAY1：オリエンテーション・暮らしづくり：チームビルディングゲーム・箸づくり
DAY2：雄勝のまちと自然を体感する：沢探検・語り部・防災教育
DAY3：森から学ぶ：間伐・山のトレッキング
DAY4：海から学ぶ：漁業体験（ホタテの水揚げなど）・釣り・魚介さばき
DAY5：田畑を学ぶ：野菜の収穫・土作り・豚の世話
DAY6：雄勝を楽しむ：こどもたちのやりたいことをやりきる
DAY7：雄勝に貢献する：まちの人の手助け、モリウミアス学び場づくり
DAY8：明日へつなぐ：次の参加者へのモリウミアス・雄勝紹介・振り返り

- 1泊2日・2泊3日プログラム「MEET MORIUMIUS」：週末や連休に家族で参加し、モリウミアスのプログラムや施設、スタッフとの交流を通じてファンを増やすことを目的とする。

DAY1：雄勝のまちを体感する・暮らしづくり：語り部防災教育・ご飯づくり
DAY2：森と海に学ぶ：漁業体験・間伐・山のトレッキング

DAY3：明日へつなぐ：振り返り

- また県内の公立学校が日帰りで体験活動に参加するなどコロナウィルス感染拡大下においても教育の機会を創出した。また熊本市や益城町といった地震の被害を受けた地域で暮らすこどもやNPOキッズドア・NPOエンカッレッジと連携して貧困家庭のこどもを招待し、児童養護施設の至誠学園にはオンラインでプログラムを配信した。

② 大人向けプログラム（ボランティアを始めとする企業）

企業研修：大手企業の中間管理職が異業種研修をオンラインで実施。画面を通じてモリウミアスや雄勝へのつながりを強め、長く町に関わるパートナーづくりのきっかけを目指した。

ボランティアツアー：SONYやGoogleといった企業のボランティアツアー、海外から毎年訪れていたハーバード大学ビジネススクール、個人ボランティアツアーなども今年度はオンラインで町の現状説明や意見交換を行い、こども達の学び場づくりをより豊かに進化させ、町の未来を明るくすることを目指した。

地域属性：こども向けプログラム：県外：約 65%、宮城県内：約 35%、海外：0%

大人向けプログラム：県外：65%、宮城県内：20%、海外：15%

事業実施によって得られた成果：

訪問者は激減するも、オンライン化を進めることによりこれまで以上に多くの学びや交流の機会が育まれた。また石巻市の事業の指定管理として運営する、町の公園計画に参画するなど震災から10年が過ぎたからこそ動き出した町づくりにも参画。

（イ） 学習支援事業

総合学習の連携として雄勝小学校が毎月1日モリウミアスで自然と共生するプログラムや滞在するこども達と交流する授業を実施。また、宮城県内の小中学校3校が日帰り訪問。生きる力を育む課外授業としてたくさんの学びを得た。

4. 寄付や助成金提供企業・団体：

今年度も多くの方々の支援により活動が継続されました。団体を記載いたします。日本財団、J Coin。